

## (9) 除草体系

### ア 一年生雑草中心の水田

一年生雑草が中心で、他にはマツバイやホタルイなど多年生雑草でも主に種子で繁殖する雑草が発生する水田では、一発処理剤のみの一回防除が可能である。初期一発処理剤は既発生雑草への効果がやや劣るので、田植え後なるべく早い時期に、初中期一発処理剤をノビエの葉齢に注意して使用適期内に散布する。但し、ホタルイはノビエよりも早く葉齢が進展するので、ノビエの2.5～3葉期まで効果のある剤でもホタルイの葉齢があまり進まないうちに散布する。また、雑草発生量が多く一発処理剤で防除しきれない場合は、中期剤や後期剤との体系処理を行う。

### イ 一年生雑草＋マツバイ、ホタルイ、ウリカワの発生する水田

発生量が少ない場合は一発処理剤による防除が可能であるが、発生量が多い場合は、初期剤＋初中期一発剤又は中期剤の体系処理が必要になる。

### ウ 一年生雑草＋マツバイ、ホタルイ、ウリカワ、ミズガヤツリの発生する水田

発生量が少ない場合は一発処理剤での防除が可能である。ミズガヤツリは発生が早く、代かき時に既に発生している場合があるので、その時は浅めの水深で代かきを行って発生している個体を完全に土中に埋没させる。また、葉齢の進みも早いので、できるだけ早い時期に一発処理剤を散布すること。但し、ミズガヤツリの発生量が多い場合はやはり体系処理を行う必要がある。発生が早いミズガヤツリに合わせて、初期剤を散布し、その後はミズガヤツリの再生や他の雑草の発生に合わせて、初中期一発処理剤や中期剤を散布する。

### エ 多年生雑草の発生が多い水田

ミズガヤツリやウリカワだけでなく、コウキヤガラ、オモダカやクログワイなど多年生の難防除雑草が発生する水田では、除草剤の体系処理が前提になる。さらに秋季防除や耕種的防除を組み合わせる(347頁)。

### オ アオミドロなどの藻類や表層はく離の発生が多い水田

スルホニルウレア系の成分は発生後の効果がないので、発生始めまでにトリアジン系の成分(ジメタメトリン、シメトリン)を含む初期剤・一発処理剤を散布する。発生後には、モゲトン粒剤を散布する。